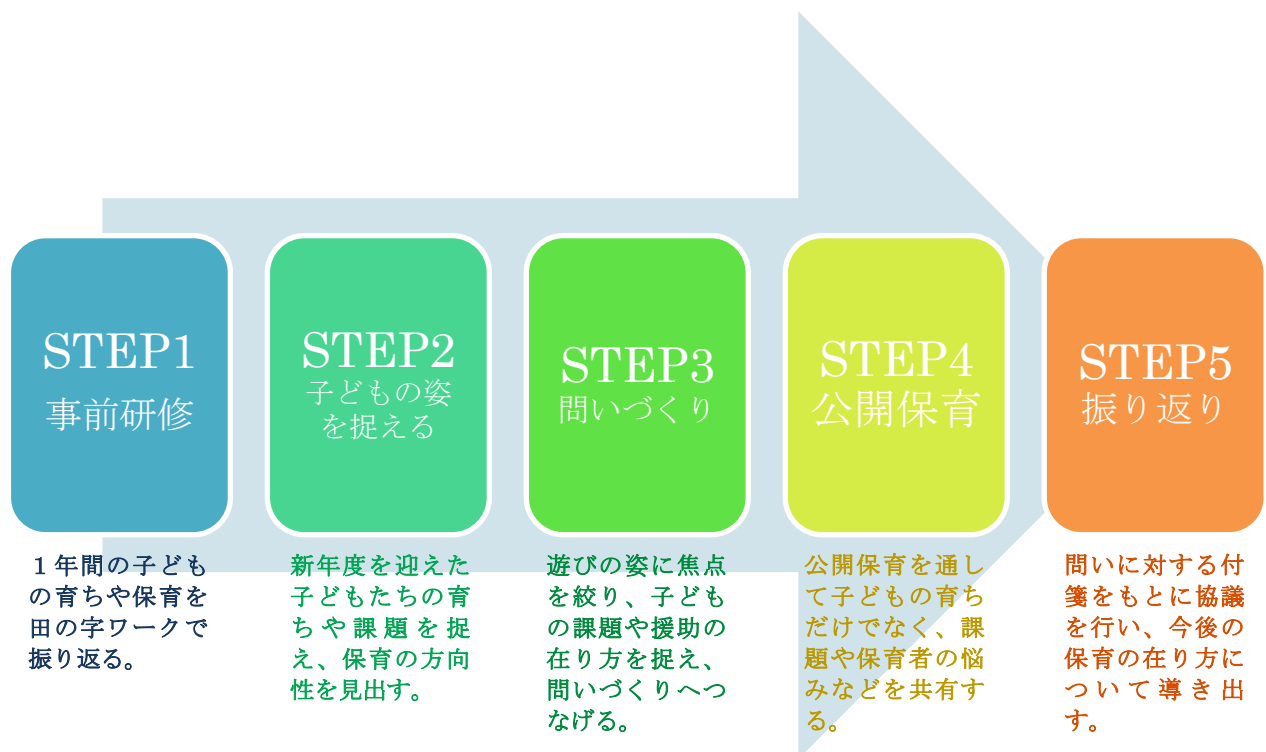


# ASECE

Asahikawa Step for Early Childhood Education

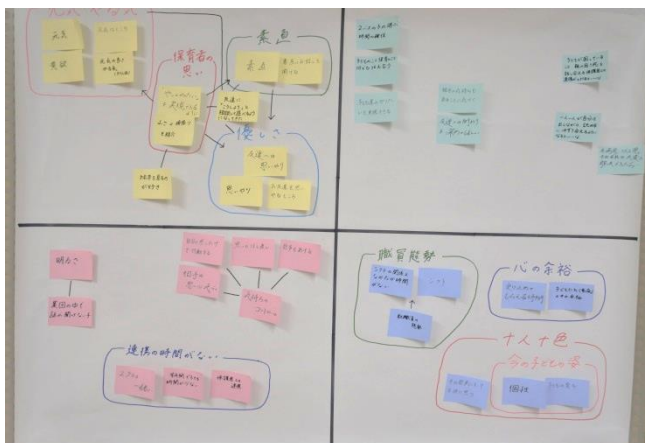
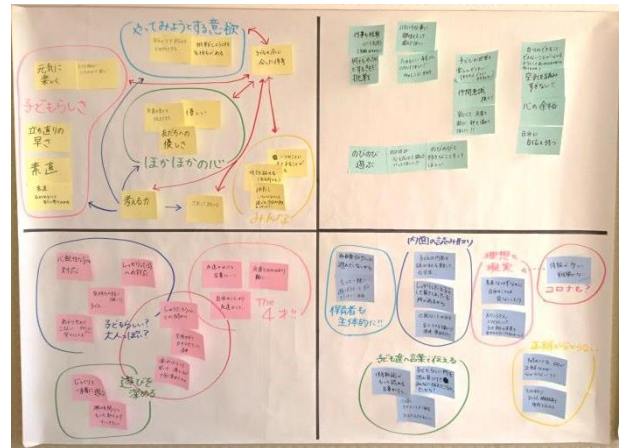
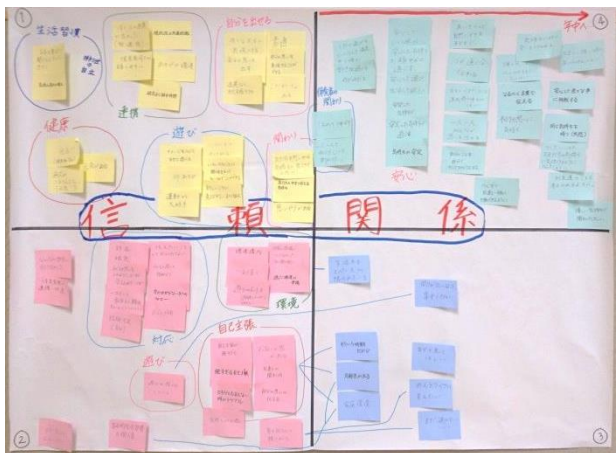
Nanchatte ECEQ



## <STEP1 事前研修>

各学年での研修を通して子どもたちの育ちを捉え、保育の振り返りや見直しを継続して取り組んできた。年度末に1年を通した子どもたちの育ちや保育について各学年で田の字ワークの研修を行い、振り返る。

- ①学年の子どもたちのよさ・育ち・好きなところ (子どもの姿)  
学年で大事にしてきたこと・今後も続けたいこと (保育者個人のこと、連携のこと)
- ②困っていること・難しいなあ…と思う課題 (子どもの姿)  
まだできていない・取り組めていない課題 (保育者個人のこと、連携のこと)
- ③ ②で挙げたことがなぜ課題なのか、原因は何か、どうして困っているのか、  
できていない障壁は何か、どうしてよいか分からないこと、自分の中での引っかかり
- ④ ①～③を振り返ってみて、「こうだったらいいなあ」「こうなってほしいなあ」など  
こうなりたい・こうしたいというイメージや希望、理想

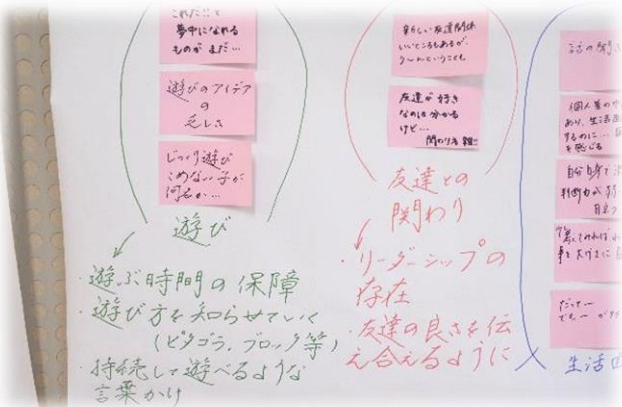


## <STEP2 子どもの姿を捉える>

STEP1 で使用した模造紙を活用し、新しい学年でスタートを迎えた子どもたちの育ちや課題、保育者の願いや必要な援助を捉える。

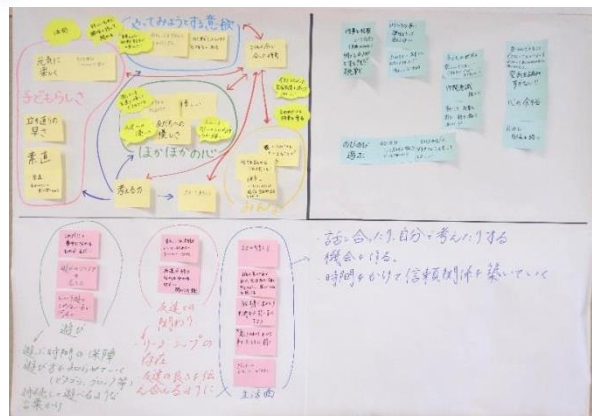
- ①前年度末からの子どもたちの育ち、  
新たに見えてきた子どもたちのよさを捉え、  
STEP 1 で使用した模造紙の①の枠に加える。

\*形の違う付箋を使うことで育ちの変化や  
子どもたちの本質、大切にしたい姿を  
捉えて保育者間で共有する。



- ②子どもたちの課題は何か、課題に変化は  
見られるのかを捉える。

\*新しい模造紙に付箋を貼って分類し、  
昨年度の課題と比較することで、  
課題の変化を捉える。



- ③新たな課題を受けて、どのように  
保育を行っていくべきかを考える。

\*課題の解決に向けてどのような  
援助や環境構成が必要かを  
話し合い、模造紙に直接記入する。

- ④STEP 1 の捉え方と比較しながら  
今後何を願って保育へ向かっていく  
のかを見出す。

### 【STEP2のねらい】

- 子どもたちを多面的に捉える力や内面を理解する保育者の目など《保育力》向上を図る。
- 子どもたちの育ちやよさ、課題面を共通理解し、何を願いどのように保育を行うべきかを共有する。



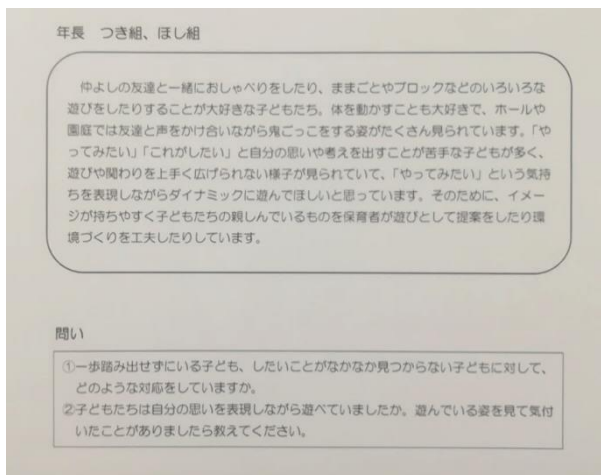
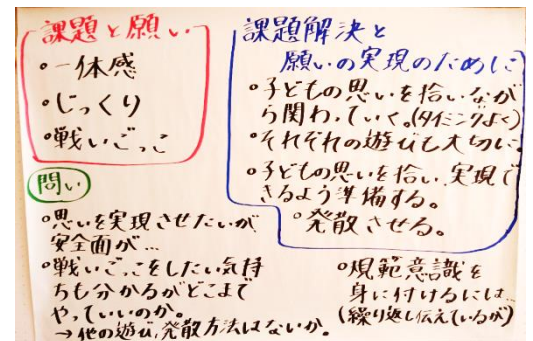
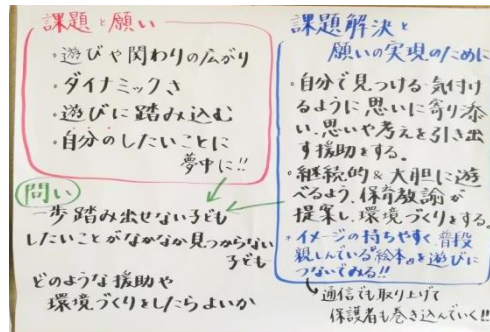


## <STEP3 問いづくり>

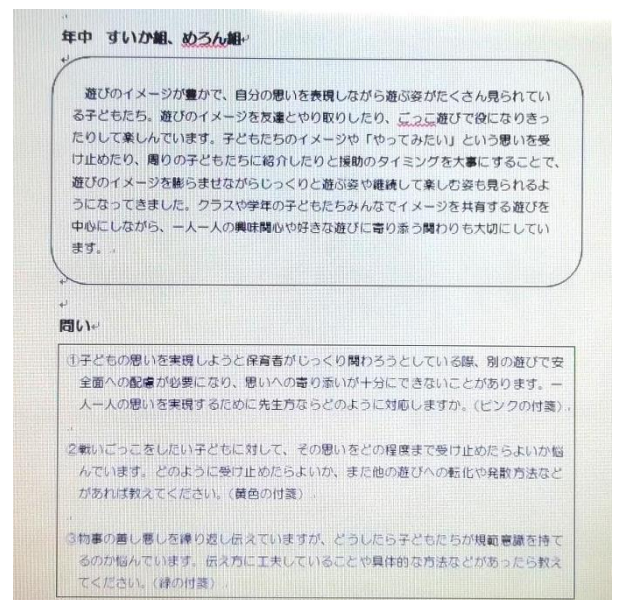
STEP2の模造紙を見ながら子どもたちの課題や必要な援助、環境構成を捉え直し、公開保育へ向けての問いづくりを行う。

- ① 子どもたちの興味関心や遊びに焦点を絞り、子どもたちの課題や保育者の願いを捉える。
- ② 課題の解決や願いの実現のためにどのような援助や環境構成が必要かを考える。
- ③ ②で考えた援助や環境構成の他によい方法はないのか、公開保育の参加者に聞きたいこと、教えてほしいこと、伝えたい悩みなどを問いとして見出す。

\*話し合ったことを模造紙にまとめて可視化することで、公開保育の際に参加者に配付又は掲示する文章をつくりやすくする。



\*文章化の際には、子どもの様子だけでなく、課題面や保育者の願い、普段どのように保育をしているのかを簡潔に記すことを意識する。

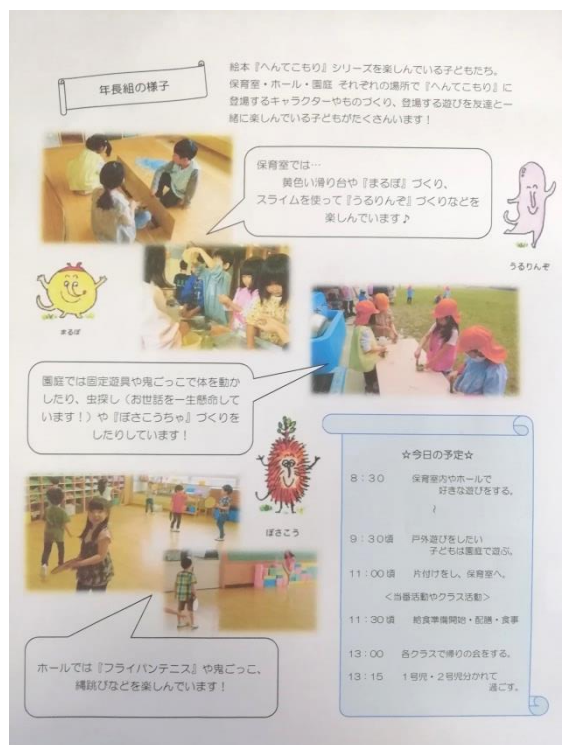
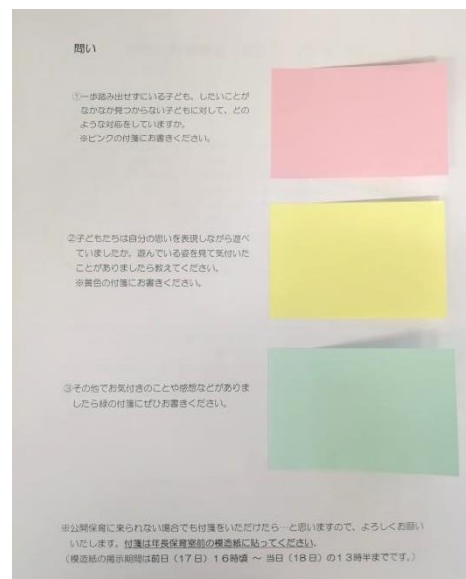
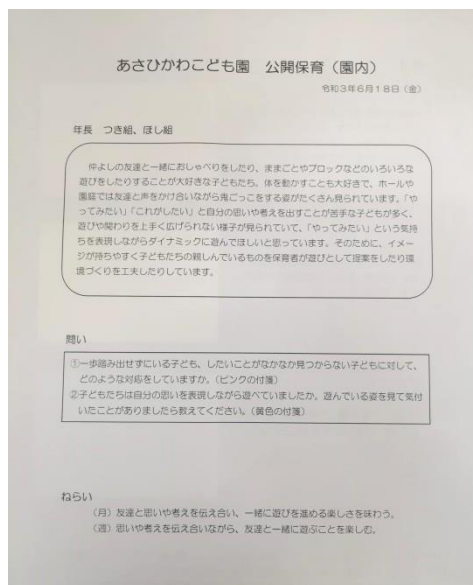


## <STEP4 公開保育>

○公開保育に向けた準備を行う。

- ・問いをつくった際の資料
- ・付箋をつけた用紙
- ・補助資料（どのような遊びを楽しんでいるのか、1日の流れなど）
- ・付箋を貼るための模造紙

**\*休暇や保育などで公開保育を参観できなくても付箋を貼れるよう、模造紙は公開保育前から掲示しておく。（よりたくさんの意見、回答をもらうことで学びにつなげる。）**



↑ 補助資料も分かりやすく簡潔にまとめたり、子どもの遊びや育ちに関心を持ってもらえるように写真やイラストを加えたりする。



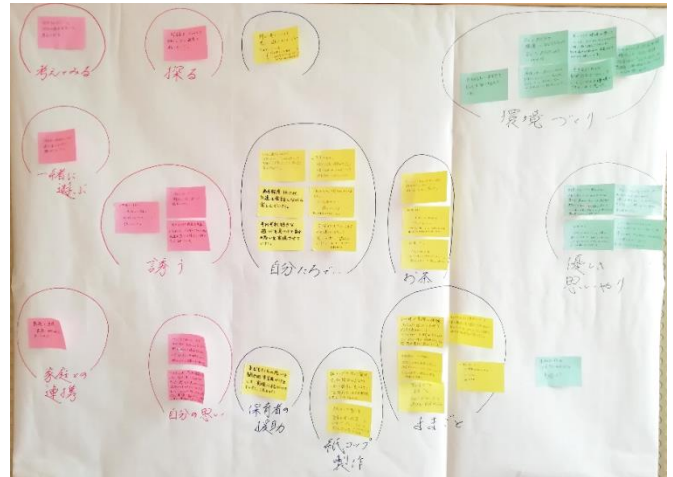
## <STEP5 振り返り>

STEP4 公開保育でいただいた付箋を学年の保育教諭で分類し、今後の保育の計画や大切にしたいことを導き出す。

- ①いただいた問いをじっくり見ながら  
問いごとに分類を行い、タイトル付けを  
する。

(援助の仕方や子どもの姿などで分類を  
する。)

\*分類を行うことで、これまでの研修や  
保育が実際の子どもにどのように  
反映されているのか、どのようなつなが  
りをもっているのかを捉える。



- ②気になった付箋や気になる分類を取り上げて話し合いを行う。

例)「保育者が子どもの思いを捉えながら環境づくりを行っている」という付箋

→「本当は自分たちで「これが必要だから…」と自分たちでどんどん環境づくりに関わってほしい…」(願いや育ってほしい姿を出す。)

例)「仲よしの友達と違う遊び場で遊んでいたTくん」という付箋

→今までは「仲よしだから…」と友達に気を遣ってあまり興味のない遊びも一緒にしていたが、「無理して一緒に遊ばなくてもいいんだ」と自分の思いを素直に表現できるようになった。

(めざしてきた姿が見られたことで、保育者の研修や連携が保育や子どもの姿につながっていることを保育者間で共有する。)

- ③今後どのような姿や育ちを願い、どのように保育をしていくべきかを話し合う。

\*いただいた付箋を活かしながら自分たちの保育の方向性を学年の保育者間で確認を行う。最終STEPだが、今後の研修でこのSTEP5で導き出したものが保育にどのようなつながったのか、子どもたちにどのような育ちが見られたのかなど、継続して研修&保育を行う。

